

## 富山県立山町方言の原因・理由表現

小西 いずみ

### (1)はじめに

ここでは、富山県なかにいかわぐんたてやままち中新川郡立山町方言の原因・理由表現に関する調査結果を報告する。調査項目は「原因・理由表現 共通調査項目」によるが、未調査の項目もある。

立山町は、富山県の中央から東南に広がる町である。面積は300余km<sup>2</sup>、人口は約28,000人(平成18年4月時点)。北部は富山市などと連続する平野が広がり、東南部は立山連峰を含む山岳地帯となる。今回の調査地点は、富山市西部(水橋・三郷地域)に近い、平野部の農村地帯にある。

富山県の方言は大きく県西部(呉西)と県東部(呉東)に分かれる。立山町は別稿で報告する富山市と同じく県東部に位置し、その方言特徴も富山市に非常に近いが、原因・理由表現においてはケニという接続助詞が優勢であることから、富山市方言とは区別して報告を行うことにした。ケニは近畿より西に広がるケー・ケンの類と同源と思われる、ケニが富山県内に存在することは、原因・理由の接続助詞の言語地理学的考察において重要な情報と判断したためである(彦坂佳宣2005「原因・理由表現の分布と歴史—『方言文法全国地図』と過去の方言文献との対照から—」『日本語科学』17号などを参照)。

### (2)調査の概要

話者は1924(大正13)年生まれの男性である。生育地は立山町泉<sup>いずみ</sup>、調査時住所は立山町浦田<sup>うらだ</sup>(生育地に近接)。言語形成期後に立山町以外での居住歴が約8年ある。調査は2008年、話者自宅で行った。調査方法は、調査項目の共通語文を方言訳してもらうもので、適宜、予想形式に対する文法性判断を問うた。

今回の調査で得られた形式を下に整理する。

( $\alpha$ 類) ケニ<多>, カラ<共通語的>(稀)

( $\beta$ 類) ガデ<稀>, モンダケニ<稀>, モンダカラ<共通語的>(稀)(断定辞ダはデヤ・ジャとも)

<>: 話者の語形に対する意識, ( ): 出現頻度など調査者が気づいた点

富山市方言の報告と同様、上の $\alpha$ は、主節のモダリティ制限がなく、共通語の「から」とほぼ同様の用法を持つ形式、 $\beta$ は、主節のモダリティ制限がある形式である。ガデ(ガの子音は鼻濁音となるのが普通)は、共通語の「ので」に対応する、《準体助詞ガ+助詞デ》という語形成のものである。モンダケニ・モンダカラは《形式名詞モン+断定辞ダ等+ $\alpha$ 類形式》で、共通語の「ものだから」に対応する構成の形式である。名詞・形容動詞述語に付く場合、 $\alpha$ は終止形ダ・デヤ・ジャに、 $\beta$ は連体形ナに付く。

調査ではケニの使用の可否の確認を優先した。カラ・モンダカラは稀にしか現れず、共通語的と意識されていたため、以下の報告では触れない。

### (3)文字化について

方言文例には、表音的カタカナ表記を用いる。調査地点の音素体系は共通語と基本的に同じである。音韻・音声上の特徴とその表記を以下にまとめておく。

- ・いわゆるガ行鼻濁音を持つが、破裂音と区別せず「ガ」「ギ」…と表記する。
- ・「シ」「ス」「ジ」「ズ」が中舌化することがあるが、表記には反映しない(音韻上は区別さ

れている。「チ」「ツ」も中舌化する可能性があるが、今回の調査では得られなかった)。

・「セ」が口蓋化することがあった。口蓋化が著しい場合は「シェ」と表記する(「ゼ」も口蓋化する可能性があるが、今回の調査では得られなかった)。

・文末の「？」は上昇音調を表す。

・句(文節)末が長音化し、ピッチが変動する音調(いわゆる「ゆすり音調」)をとることがあるが、その長音を忠実に表記に反映すると煩雑になるため、省略した。

また、文単位での発話を求めると、同じ共通語文に対し、原因・理由表現以外の形式にも若干の違いが生じることがあった。そこで、原因・理由表現の選択に影響を及ぼさないと判断される部分の異同を、次のように示すことがある。

{X/Y/…} 形式XまたはY(または…)が用いられる。(X, Y, …にあたる位置にゼロ形式を表す記号「φ」を用いることがある。)

(X) 形式Xを任意に挿入可能。

## 1 「から」と「ので」の用法

### 1-1 事態の原因(接続調査を兼ねる)

事態の原因を表す場合は、ケニも可だが、β類(ガデ・モンダケニ)が現れやすい。どの形式も、活用語の終止・連体形に接続する。名詞・形容動詞述語の場合、ガデ、モンダケニは連体形ナにも付き、終止形への接続は許容されない。

1-1-1 マイニチ アメア フル {ケニ/ガデ/モンダケニ} センダクモンナ カワカン {ジャイ/チャ}。

1-1-2 マイニチ アメ {ダケニ/ナガデ/ナモンダケニ/×ダモンダケニ} センダクモンナ カワカンチャ。

1-1-3 テンキア イー {ケニ/ガデ/モンダケニ} センダクモンナ ヨー カワクチャ。

1-1-4 コノ {ヘヤー/ヘヤノ ナカー} シズカ {ダケニ/ナガデ/ナモンジャケニ} シゴトニ イッショケンメニナラレツチャ。

注：主節は「仕事に一所懸命になることができる」の意。

1-1-5 ヨンベ デカイ アメア フツタケニ ジメンニ ミズタマリア デキトツチャ。

1-1-6 コドモダケニ ワカラナンドゾイネ。

### 1-2 行為の理由(主節のモダリティ制限の調査を兼ねる)

ケニには主節のモダリティ制限がないが、ガデは聞き手への働きかけ表現で、モンダケニは意志表現や聞き手への働きかけ表現で許容されにくくなる。また、1-2-4と1-2-5から、聞き手への待遇価が高い表現ではガデ・モンダケニが許容されやすいことがうかがえる。こうした点は共通語の「ので」「ものだから」や、富山市方言の調査結果に似る。

1-2-1 カラダノ チョーシア ワルイ {ケニ/ガデ/モンダケニ} シゴト {ア/オ/φ} ヤスムコトニシタチャ。

1-2-2 カラダノ チョーシガ ワルイ {ガデ/モンダケニ} キョーワ シゴト ヤスモーカーノ。

1-2-3 ヨサルア ミチア クライ {ケニ/ガデ/?モンダケニ} イッショニ カエランマイケ。

注：ヨサル=「夜」

1-2-4 アカンボーア ネットル {ケニ/×ガデ/×モンダケニ} シズカニセツシャイマ。

1-2-5 アカンボー ネットルケニ シズカニシテクレツシャランカヨ。

アカンボー ネットルガデ シズカニシテクタハレヨ。

アカンボー アコニ ネットルモンダケニ シズカニ タノンマスチャ。

1-2-6 アメア フルケニ カサ モツテケマ。

### 1-3 判断の根拠

判断の根拠を表す場合、ガデ・モンダケニは許容されにくい。

1-3-1a ホシャ デトル {ケニ/?ガデ/×モンダケニ} アスモ テンキ イーチャ。

注：主節は、「明日も天気がいいよ」に相当する表現。

1-3-2 ヒダリテノ クスリユビニ ユビワ ハメトラッシャルケニ シャ アンタ ヨメハン  
オラッシャルガデヤネー。

注：「左手の薬指に指輪をはめていらっしゃるから、それは、あなた、嫁さんがいらっしゃるのだね」に相当する表現。

1-3-3 セッキヤ ヨー デルシー ネットツポイケニ カゼ ヒートランカモシレンチャ。

1-3-4 サッキ アンター シンブンハイタツノ オト シタケニ ゴジ スギタガデナイガケ。

注：「アンター」は呼びかけの機能を持つ間投詞として挿入された二人称代名詞。主節は「五時を過ぎたのではないか」相当の表現。

### 1-4 発言・態度の根拠

1-2でも見たとおり、主節が働きかけの表現の場合は、ガデ・モンダケニが用いられにくい。

1-4-1 アブナイ {ケニ/?ガデ/×モンダケニ} コノ カワデ アソバレンチャ。

1-4-2 カゼ ヒッカモシレンケニ アツギシテ イカレヤ。

注：ケニ節は「風邪をひくかもしれないから」相当の表現。

1-4-3 キョーノ シゴトア ンナ オワッタケニ コデ カエランマイケヨ。

注：コデ＝「これで」

### 1-5 理由を表さない用法

すでに見たように、主節が働きかけの表現の場合は、ガデ・モンダケニは用いられにくいですが、

1-5-1の「～テクレッシャイマ」という丁寧な依頼表現ではガデが許容された。

1-5-1 スグニ カエッテ {クツケニ/クルガデ} ココデ マットツテクレッシャイマ。

注：「ガデのほうが、自分の都合を説明しているニュアンス、言い訳しているニュアンスがある」という。動詞末尾のルが促音になる変異形については、別稿の富山市の調査報告1-3-1bの注を参照されたい。

1-5-2 イッペンデ イーケニ ピラミッドニ ノボツテミタイチャ。

1-5-3 タノンマスケニ オカネ スコシ カシテクレッシャイヨ。

注：「タノンマスケニ」は「頼みますから」相当の表現。「オネガイダカラ」「オネガイダケニ」は、“良家の言い方”で用いにくいとのこと。

1-5-4 クルマ ヨンデアゲツケニ スグ ビョーイン イカレヤ。

1-5-5 ツクエノ ウエニ オイテアルケニ オラノ サイフ トツテキテクレンカ。

### 1-6 原因・理由節の述語用法（XはYからだ）

原因・理由節の述語用法でもケニは可とされる。β類は現れない。

1-6-1 A：キブンナ ワルイナー。

B：アンナニ イッパイ ノムケニデヤガヨ。

1-6-2 A：キョーワ ミセヤ コンドルネー。

B：ニチヨードケニダロワイ。

注：ミセヤ=店屋

1-6-3 A：コノゴロ アンマ キゲンナ ワルテヨ。

B：アンニヤ ジローノコトバツカリ ホメルケニジヤナイガカヨ。

注：「アンマ」は長男の意。「アンニヤ」は二人称代名詞。

1-6-4 A：コノゴロ タローノ キゲンナ ワルイケニノー。

B：オラ ジローノコトバツカリ ホメルケニカノー。

注：Aの発話末にも1-8-2の終助詞的用法にあたるケニが用いられている。

## 1-7 従属節内のモダリティ表現

### 1-7-1 伝聞・推定表現など

伝聞・推定のソーダ・ヨード・ラシーは共通語的で方言としては用いにくいとされ、別の代替形式での発話を得た。1-7-1-3でも「フリソーダは標準語の言い方」とされ、これに相当する発話が得られなかった。

1-7-1-1 テンキヨホーダヤー コンヤ アメデヤツテューケニ ハヨ カエランマイカ。

注：テンキヨホーダヤー=「天気予報では」、アメデヤツテュー=「雨だと言う」。「カエランマイカ」は勧誘表現。

1-7-1-2 アメラシーケニ ハヤメニ カエランマイケ。

注：動詞接続のラシーは得られず、かろうじて「雨」に接続した例を得た。「カエランマイケ」は勧誘表現。

1-7-1-4 ドーモ ネット アルヨーナフーダケニ ハヤメニ カエルコトニシタチャ。

注：「アルヨードは標準語。言うとしたらアルヨーナフーダになる」とのこと。

1-7-1-5 アメア フルカモシレンケニ カサ モツテキタチャ。

### 1-7-2 推量表現

推量表現にはケニが付きにくい。ただし、否定推量「～ンマイ」と「名詞+ダロー」にはケニが付く発話を得られた。

1-7-2-1 ×アメ フローケニ カサ モツテケヤ。

注：「あえて不確かなことを理由にした表現を使うならフルカモシレンケニになる」とのこと。

1-7-2-2 ×ヤマデワ デカイト ユキガ フッタローケニ ナダレガ シンパイダチャ。

1-7-2-3 タイシタ アメニチャ {ナランマイケニ／×ナランマイローケニ} カサ モツテカンチャ。

注：「～ンマイロー」は、「～ンマイ」と同様、否定推量「～ないだろう」の意。

1-7-2-4 ×ソトワ サムカローケニ アツギシテ イカンマイ。

1-7-2-5 コノブンダト キャー アシタワ アメダローケニ エンソクワ チューシダチャ  
キャー。

注：「キャー」は、2箇所とも「これは」相当。「アメダローケニ」の部分は、「アメダケニ」になりがちで、何度か発話してもらってかろうじて発話を得た。

### 1-7-3 丁寧表現

丁寧のマス・デスにもサカイやガデは付きうる。

1-7-3-1 チョット オハナシ シタイコト アリマスケニ ココエ チョット キテクダハレヨ。

1-7-3-2 ヒルカラ アメデスケニ タノンマスチャ。

注：「昼から雨ですから、頼みますよ」に相当する。調査項目の文が日常的ではなく、発話が得られにくかったため、「雨デスケニ」と言えるか確認すると、上の文が得られた。

## 1-8 文末用法

### 1-8-1 倒置

ガデ・モンダケニは得られなかった（誘導して確認してはいない）。

1-8-1-1 ハー ココデ チョット マットツテクダハレヨ。スグ モドツテクルケニ。

1-8-1-2 チョット ゴセンエン カシテクレンケー。ツキズエマデニ カエスケニ。

### 1-8-2 終助詞的用法

ケニは、文の最末尾で用いられるだけでなく、終助詞「ノー」を後接しうる。ガデ・モンダケニは得られなかった（誘導して確認してはいない）。

1-8-2-1 アトデ モー イッペン デンワシマスケニ。

1-8-2-2 チョット イツテクルケニ。ウマイモンナ レーズーコノ ナカ ハイットルケニノー。

注：「ウマイモンナ」は「美味しいものが」の意。

1-8-2-3 アンニャノ コトチャ ワスレンケニノー。

1-8-2-4 トットニ イーツケテ ヤルケニノー。

## 2 「のだから」の用法

「のだから」に相当するのはガダケニである。これらの形式の用法は、共通語の「のだから」と同様である。

### 2-1 「から（ので）」との相違

2-1-1a ジカンガ ナイケニ {イソイダ/イソガンマイカ/イソイデー}。

b ジカンガ ナイガダケニ {×イソイダ/イソガンマイカ/イソイデー}。

注：「イソガンマイカ」は勧誘表現。

2-1-2 テンキア イー {モンダケニ/×ガダケニ} サンボニ イッテキタチャ。

### 2-2 意味・用法（接続調査を兼ねる）

#### 2-2-1 確かな事実とその当然の結論

2-2-1-2では「ダケニ」も可とされた（共通語でも「から」が許容されやすいか）。

2-2-1-1 コイ エライ ガンバッタ{?ケニ/ガダケニ} コンドア ウマク イクハズダチャ。

注：「コイ エライ」=「こんなに たいそう」

2-2-1-2 ダイジナ ハナシ {ダケニ/ナガダケニ} コドモワ アッチ イットラレヨ。

2-2-1-3 コッチワ アンター イッショーケンメー {×ダケニ/ナガダケニ} カラカワレンナヨ。

注：「アンター」は間投詞的に挿入された二人称代名詞。

#### 2-2-2 聞き手に関する情報—行動要求・認識要求

2-2-2-1 ワカイ {×ケニ/ガダケニ} イチドヤ ニドワ アカンデモ クヨクヨシラレンナ

ヨ。

2-2-2-2 シケン ウケル {×ケニ／ガダケニ} モット イッショケンメニ ベンキョセンニヤ  
ダメダチャ。

2-2-2-3 リューガク スル {×ケニ／ガダケニ} チヤント ベンキョーシテコンニヤー。

### 2-2-3 後件が聞き手の利益になる事柄の場合

2-2-3-1 ジカンナ マダ イッパイ アルガダケニ ユックリ シテイカレヨ。

### 2-2-4 倒置

2-2-4-1 カラダニ キー ツケラレヤ。モー ワカナイガダケニ。

2-2-4-2 ジブンデ キメンニヤー モー コドモジャ ナイガダケニ。

2-2-4-3 ソリヤー シンパイスルチャ。オヤナガダケニ。

注：ただし「オヤダモンニ」のほうが自然だという。

### 2-2-5 終助詞的用法

2-2-5-1 オラ カナラズ アノ ヒトト ケッコンスルガダケニ。

## 3 接続詞「だから」の用法

原因・理由の接続詞としては、ダケニ (ダヤケニ) がもっとも多く得られ、ほかに、ホンダケニ (ホンダヤケニ) も得られた (各項目で使用の可否を確認したわけではない)。また、1例のみダモンダケニもあった。

### 3-1 接続助詞「から」の文に言い換えられ、2文が同一の話し手によるもの

3-1-1, 3-1-2も確認したが、「フルケニ、～」など複文で言うとされた。

3-1-3 スグ モドッテクツチャ。ダケニ ココデ マットッテクレッシヤイヨ。

### 3-2 接続助詞「から」の文に言い換えられ、2文の間に話者交替があるもの

#### 3-2-1 相手の発話中の事態Pを受け、それから導かれる帰結Qを述べるもの

意味上「事態の原因」の用法にあたる3-2-1-1で、ダモンダケニも得られた。

3-2-1-1 A：チカゴロァ マイニチ アメダヤネー。

B：オイネ。{ダケニ／ホンダケニ／ダモンダケニ} シェンダクモンナ ナーン カ  
ワカンデ ヨワットルチャ。

注：この場合ではホンダケニのほうがダケニより用いやすいという。

3-2-1-2 A：キョーアー アメダチュガダネー。

B：ダケニ カサ モッテイカレヤ。

#### 3-2-2 聞き手に結論を求めるもの

ダケニ単独で、聞き手に結論を求める表現にはならない。

3-2-2-1 A：タイヘンダ。アメ フッテキタ。

B 1：ダケニ ドーシタチュガヨ。

B 2：ダケニ ナンダチュガヨ。

B 3：×ダケニ？

注：B 2は「だから、何だと言うのだ」に相当する表現。

### 3-2-3 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既知の事態Qの原因・理由であると認定するもの

共通語でダカラ・コレダカラが可能な3-2-3-2でも、コ系指示語ではなくソ系指示語「ホン」を伴う例が得られた。

- 3-2-3-1 A：ジコデ アンタ デンシャ オクレトルチュガダゼ。  
B：アー ソイガケ。ダケニ ミンナ マダ コンガダ。
- 3-2-3-2 ホンダケニ レンキューニ デカケルガ イヤナガダチャ。
- 3-2-3-3 アンダケニ レンキューニ デカケルガ イヤナガダチャ。

### 3-2-4 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既に行った発話行為Qの理由であると認定するもの

この場合もダケニ（ダケケニ）・ホンダケニ（ホンダケケニ）が可とされる。

- 3-2-4-1a {ダケケニ／ホンダケケニ} オイトケッテ ユータガニ。  
b ダケケニ オイトケッテ ユータログヨ。  
c ダケケニ オイトケッテ ユータネカヨ。

### 3-3 接続助詞「から」の文に言い換えられず、「あなたもわかっているはずなのに」という話し手の態度を表すもの

#### 3-3-1 「あなたが…と言うから私は～と言う」という発話行為間の因果関係があるもの

この場合もダケニ（ダケケニ）・ホンダケニ（ホンダケケニ）が可とされる。

- 3-3-1-1 A：サッキ ユータ シゴト チャント タノムジャイネ。  
B：オン。キョージュニ ヤッチャ。イマ チョット イソガシーモンダケニ デ  
キンガダレド。  
A：ナラ アシタマデ タノムチャヨ。  
B 1：{ダケケニ／ホンダケケニ} キョージュニ ヤルテ ユートルネカヨ。  
B 2：ダケケニ キョージュニ ヤルチャヨ。
- 3-3-1-2 A：キョーア タノミゴト アッテ キタガダチャ。  
B：ナンケ。ハナシテミラレヨ。  
A：ヤー ダイジナ コトナガダチャ。  
B 1：ダケニ シャベッテミラレテ ユータログイネ。  
B 2：ダケニ シャベッテミラレヨ。

#### 3-3-2 発話行為間の因果関係がないもの

この場合もダケニ（ダケケニ）が可とされる（ホンダケニは未確認）。

- 3-3-2-1 A：サッキ タノンダ シゴト ヤッテクレタカイネ。  
B：エ？ ナンノコトダッタケ？  
A：ダケニ ゴゼンチューニ タノンダ アノ シゴトダチャ。
- 3-3-2-2 A：キョーア チョード タナカサンニ オータチャ。  
B：エ？ ドノ タナカサンケ。  
A：ダケニ キノー ハナシテオッタ サンチョーメノ タナカサンダチャ。